

多田グリーンハイツ地区及び清和台地区での 学校統合については再検討します

川西市教育委員会

少子化による児童数減少という状況下において、教育の質の維持・向上のために必要という判断のもと、平成27年8月開催の教育委員会定例会で決定した小学校統合について、これまで進めてきましたが、現在様々な要因から、両地区内の児童数の減少傾向に一定の歯止めがかかる可能性が認められました。

そこで、平成28年6月開催の教育委員会定例会で、先の小学校統合に関して再検討する旨の決定をいたしました。

これまで、学校統合に関わり、保護者や地域の皆様に対しまして、ご心配、ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

今後は、さらに地域の皆様のご意見に耳を傾け、教育環境の整備に努めてまいりたいと考えています。

以下は、平成28年6月開催の教育委員会定例会の資料(別紙)の説明であり、1.これまでの課題について、2.今後の対応について、3.学校配置の適正化に関する手順の作成を示しています。

1. これまでの課題について

- (1) 児童推計の検証について...長期的な減少傾向は変わりませんが、地区内への転入事情等の要素を考慮していないため、実態と異なる推計結果が出るがありました。
- (2) 統合へのプロセスについて...これまでの統合を進めていく過程で、十分な理解を得ることができませんでした。
- (3) 保護者や地域住民への説明プロセスについて...統合に向けての合意形成を図る過程で、保護者や地域の方々への説明等で、ご意見を聴く機会をより充実させていく必要がありました。

2. 今後の対応について

- (1) 児童推計方法は、再検討する。...年度途中の転入事情等、実態を出来るだけ反映した新たな推計方法を再検討します。
- (2) 両地区における統合方針は変更しない。ただし現時点で示している統合年度は再検討する。...今後の学校校区のあり方については、平成27年6月の川西市立学校校区審議会答申(以下「答申」)にあった三つの原則(「各学校の教育の十全な展開と学校間の教育上における平等性の確保」「通学上の安全の保持」及び「校区と地域の関係性への配慮」)に基づき、教育上の視点で今後も検討しますが、平成30年度の多田グリーンハイツ地区、平成31年度の清和台地区の統合年度は再検討します。

(3) 校区審議会による再審議はしない。…「答申」においては、今後の学校区のあり方について、上記(2)の三つの原則および平成26年5月時点の推計値に基づき、両地区の統合について示されています。しかし、その基礎資料となる児童推計については、教育委員会事務局が作成していますので、児童推計の方法をどうするのか、その推計に基づいて、どのような方針で進めるのかなどに関しては、教育委員会事務局で考えてまいります。

(4) 統合後の跡地活用については、統合決定後、地域住民と協議する。…教育環境を維持することと、統合後のまちづくりとは、どちらを主に考えるべきものという、分離した関係ではありません。将来的な統合を想定するまちづくりに関する協議は、統合決定後、所管部署により住民協議を実施してまいります。

現在、学校統合が再検討になったことについて、日程調整のうえ、地域説明会を実施します。

3. 「学校配置の適正化に関する手順」を作成

(1) 適正化実施条件(新たな児童推計手法等)…新たな児童推計手法等を検討し、どのような条件が揃ったときに学校配置の適正化を実施するかについて検討してまいります。

(2) 統合する学校の選定方法…新たな児童推計方法に基づき、それぞれの学校の環境・教育的な視点を考慮のうえ、選定方法を再検討してまいります。

(3) 協議の進め方(保護者や地域住民への説明プロセス等)…保護者や地域の方々の意見を聞く機会を増やすなど、協議の機会を持ちたいと考えています。

(4) 統合等適正化に伴う課題や配慮事項の整理…今後生じるであろう課題や配慮すべき事項について整理してまいります。

「学校配置の適正化に関する手順」は教育委員会で作成します。手順案を作成後、改めて地域説明会を実施する予定です。